



フリーラクサのエコ感覚抜群なコテージ。デラックスなビラも用意されている。

フリーラクサのエコ感覚抜群なコテージ。デラックスなビラも用意されている。彼らがクラビーの地でビジネスを始めて27年、二人の娘も成長し経営者役員に名を連ね、今や完璧なファミリービジネスを行っている。彼ら親子に自分たちのビジネスで最も心がけていることは、と尋ねると返ってきた言葉は「スタッフとそのファミリーを大切にすること」。これを専門用語ではインターナショナルケテイングという。特にホスピタリティビジネスではこれが鉄則なのだが、実践できていないホテルは極めて少ない。従業員が不満で客を満足させられないのか、ということだ。何故この質問をしたかという、チェック

イン後の数人のスタッフとの会話で、ここではインターナショナルケテイングがかなり出ているようだ、と感じたからだ。彼らはこの用語を知らなかったが、具体的に聞くところまでやっているのかと本当に驚かされた。彼らは従業員を家族ぐるみで共に経営するシステムを作り上げている。他のホテルが聞くともまず間違いなく羨むだろう。(現在のタイのホテルでは従業員の確保が最大の課題になっている。) プリーチャ氏のファミリーという言葉の中には、ゲストにファミリー感覚で宿泊してほしいという意味も含まれている。結果、25%という高いリピート率を確保している。世界中にリゾートがあり、クラビーにも多くのホテルがある中で、年に一度の旅行という想定で考えるとこのリピート率はかなり高い。旅慣れた人にとって良いホテルとは、プラ



フリーラクサの湯量豊富な温泉は源泉かけ流し。トロピカルな自然の中の露天風呂は癒し効果抜群。

士橋告/どばしつぐる。1952年生まれ。サンヨーインターナショナル代表。海外の独立系ホテルの日本のマーケティングを行っている。特にタイは30年以上の関わりがあり、タイのツーリズム、ホテルマーケティング、SPAには強いこだわりを持っている。http://www.hotelmarketing.jp.com/

空港の必要性が認められてクラビー空港がオープンしたのが1999年。そして、この勢いがランタのリゾート開発へと進んでいく。彼らがランタに目をつけバックパッカー用のバンガローをオープンさせたのは、プランインのオープン数年後。これも実に早い。2004年の津波にまつわるユニークな話がある。そのバンガローを小粒のブティックホテルに変えるために解体し終わった直後に津波が襲い、その残骸をきれいさっぱり海の彼方へ運び去ってしまった。現在、そこは15室の洒落たプランランタ

今年3月1日に放映された「世界不思議発見」でクラビーのクロムトン温泉が紹介されたが、その開発者として紹介されインタビューを受けていたのが、実はこのプリーチャ氏。彼らはこのクロムトンで、フリーラクサの名で温泉リゾートも運営している。現在、クラビーの観光関連で多くの人が益を得ているのは、たとえ知らないにしてもプリーチャとパラディーの努力の賜物である。このように紹介してくると、プリーチャ氏は凄腕の経営者かと思われるかもしれないが、彼はそもそもインテリだ。物静かで、タイ語でいうと「ジャイディー(優しい)な紳士」である。



プランランタの敷地の前は幅の広い白砂が広がる。

インドでもなければハードの豪華さでもない。ヒューマンタッチの居心地の良さが最も重要な要素なのだ。リゾートホテルの場合は特にそうで、更にこの時代にあつては自然との調和、エコフレンドリーであることも必要だ。彼らの作り上げた各リゾートは、これらのコンセプトを包含したパッケージイン・ビレッジの名のもとに展開されている。

タイランド再発見！スペシャルツアー

Phra Nang Inn プラナンイン ～タイ屈指のビーチリゾート、クラビーの先駆者たち～



プラナンインの敷地には、椰子の生い茂った場所に因んで、当時から椰子の木をリゾート内に何本も残している。

どこのリゾート地にも、必ず最初にツーリスト向けの宿泊施設を始める人がいる。所謂最初に井戸を掘る人だ。今回はヨーロッパ人に絶大な人気を誇るクラビーで、最初に出来たリゾートホテルとそれを手掛けた人の紹介をしよう。海外からのツーリストを強く惹きつけるタイのリゾートの一つに、クラビーがある。日本でクラビーが本格的に紹介されるようになってから、かれこれ15年程になる。その当時英語版のブーケットのガイドブックを見て気がついたのだが、実際に紹介されている写真の半分以上がクラビーであった。そして、

タイのビーチリゾートの多くはそれ程古い歴史を持たない。クラビーもその一つで、1987年に最初に出来たホテルがプランインだ。オーナーはプリーチャとパラディーの若い夫婦で、場所はアオナンを中心地。日本で徐々にブーケットが知られるようになった時期にあたる。このカッパル、元々はバンコクの大学で講師を務めていたが、運命の導きでタイ最南部ソンクラエに移り住んだ。そして、週末ごと



プラナンインの前のビーチはヨーロッパ人で賑わう。



ランタ島のプランランタは可愛いブティックホテル。客室のデザインはすべて異なる。

に近県を旅行しているうちにクラビーに魅せられ、度々訪れるうちにアオナンに移住し、小さなインを設けてしまった。今でこそアオナンはツーリストで賑わう場所だが、当時は辺り一面椰子の木と未舗装の道路があるだけの場所。アオナンの街はプランナンインを起点に広がっていった。彼らがクラビーを世界に紹介した立役者である。結果は、ライフ誌で、Hearst's Earth、ナショナルジオグラフィック誌で「World's Hidden Travel Gems」と紹介されるほどの成功を収める。とはいえ、当初の苦労は並大抵のことではなかったようだ。現在クラビーにやってくる大勢のツーリストを楽しませているアクティビティの数々、アイランドホッピングは勿論、アオラック洞窟やタレーンのシーカヤックなど、その主要なものには彼らが開発したものだ。徐々にツーリストが増え、ホテルが増え、そしてクラビーに